

ワシントン州：小麦作柄と気象状況 2004年産小麦の作柄と気象の纏め

作柄と気象概況：

2004年産冬小麦の播種は、2003年産小麦の収穫完了が早かったことから、平年より多少早く2003年8月下旬より開始された。当時の気温は平年を上回り、降雨は殆ど記録されなかった。圃場水分は不足気味であった。降雨を待つ農家も多く、播種の進捗は2003年産並びに5年平均の進捗より多少遅れていた。10月5日現在の播種状況は、76%にて完了。2002年同期（2003年産）では89%、5年平均では81%であった。土壌水分不足は小麦の出芽にも影響が出、例年より遅い出芽となった。10月12日までに冬小麦の播種は、全州の92%の圃場にて完了し、EC地区の乾燥地帯のAdams、Lincoln郡、そしてSE地区ではWalla Walla郡にて播種は完了していた。10月下旬までワシントン州小麦地帯の気温は平年を上回り、降水は無く出芽した小麦は水分不足のストレスを呈した。10月19日現在冬小麦は82%が出芽していたが、これは平年より多少遅れた出芽のペースであった。10月末には91%の圃場が出芽していたが、土壌水分不足より昨年並びに5年平均より遅れていた。

10月下旬から11月にかけて急激に気温が下がり、各地に降水があった。11月第2週になり温度は更に下がり、平均気温は平年を9～15度F下回った。降雨は少なかった。小麦の生育は低温と乾燥の為遅れた状態で冬を迎えた。

12月後半になり、Palouse地方、Blue Mountainsに纏まった降水（降雪）があった。2004年1月になり、EC地区（東中央地区）の各郡にも降雪があった。Asotin/Gafield郡にも降雪があった。南東の山岳地帯の降雪は例年以下との報告であった。

2月の気温は平年並みか多少平年を上回った。Mild winterと成った。乾燥地帯並びに東南部の丘陵地帯には降雨があり、平年以上の気温が続いた。2月末には冬小麦は休眠から覚めGreen upを開始。土壌水分が改善され小麦には良い結果となった。

3月の気象は、平年より高い気温で推移した。適時に降水があり小麦の栄養生長にとり有効であった。特に3月25日にEC地区からWalla Walla郡に有った降雨は冬小麦の生育と、春小麦の播種に有効であった。

4月に入っても気温は平年を上回り、降水も各地に有った。冬小麦は分蘖が進み順調に生育した。春小麦の播種も進んだ。4月18日に気温が急激に下がり、霜の報告も有ったが霜害は報告されなかった。春小麦の播種は4月25日までに全州にて完了した。5月1日付けの農務省の生産量予想では、2004年産冬小麦の単位収量は63.0ブッシェル/エーカーで、昨年の実績（65.0ブッシェル）より低い数値であった。

5月に入り気象は高温・乾燥に転じた。

春小麦は温暖な気象の為、例年より早い出芽を示した。平均気温は4～8度F平年を上回り、降雨はPalouse地方に多少見られるのみであった。出芽後の春小麦に水分不足のストレスが見られた。降雨が無い上に強風が吹き土壌水分を減少させた。高温・乾燥は5月第2週まで続いた。冬小麦は5月9日現在で7%の圃場で出穂していた。昨年並びに5年平均より1週間早い出穂であった。春小麦は全州の91%（昨年：80%、5年平均：77%）が出芽していた。

5月中旬になり気温は下がり、平均気温は平年を4～6度F下回り、各地で散発的に降雨があった。5月16日には春小麦が出穂を開始した。冬小麦は全州の10%で出穂した。

その後の5月の気象は、平年並みの温度か多少平年を下回り、EC地区を含め降雨が有り、湿潤であった。この結果冬小麦並びに春小麦の作柄は改善した。5月30日現在冬小麦は53%が出穂（昨年並びに5年平均：32%）、春小麦は13%が出穂（昨年：9%、5年平均：6%）していた。4月から5月中旬までの乾燥・温暖気象が小麦の生育を早める結果となったが、5月下旬の降雨で作柄は改善した。6月1日付け農務省の生産量予想は5月1日予想より1ブッシェル増え、64.0ブッシェル/エーカーと発表された。

6月初め、EC地区では気温は平年以下であったが、SE地区では多少平年を上回った。降雨は無くEC地区は昨年9月1日からの積算降水量は平年の7割程度であった。小麦にストレスが出ていた。しかし6月7日以降天候が崩れ、気温は下がりEC地区を含め各地に降雨があった。小麦農家はこれを“Million Dollar Rain”と称した。6月13日に終わる1週間の平均気温は平年を7~10度F下回り、降水量はEC地区で0.18~0.53インチ、SE地区では0.5~1.0インチであった。Palouse地区のシーズン積算降水量は平年を上回った。その後、6月下旬から7月初めまで凡そ2週間は、高温・乾燥気象が全州を覆った。そんな中、6月30日にSpokane郡では集中豪雨があった。冬及び春小麦の作柄は昨年より良好と評価されていた。

7月1日の農務省の生産量予想は、再び上向きに修正され冬小麦の単位収量は66.0ブッシェル、春小麦は50.0ブッシェル/エーカー（昨年実績：41.0ブッシェル）と発表された。

独立記念日の7月4日までに冬小麦は100%出穂した。例年であると独立記念日までに東中央地区の一部では収穫が始るが、今年は未だであった。春小麦は89%が出穂していた。独立記念以後EC地区では気温は多少平年を下回り、小麦の澱粉蓄積には理想的な状態であった。特に灌漑圃場の小麦の作柄は良好と報告された。収穫が乾燥地帯より開始された。7月半ばになり気温は急上昇し、最高気温は各地で100度Fを超え、降雨は殆ど記録されなかった。小麦は急速に完熟、枯熟し収穫作業が進んだ。7月18日現在春小麦は99%出穂していたが、収穫は始まっていなかった。乾燥地帯の非灌漑圃場の春小麦は、高温の為澱粉のFillingが悪いと報告された。冬小麦の収穫はAdams及びLincoln郡で最盛期を迎えていたが、全州では6%が収穫された状態であった。冬小麦の収穫作業は中央平原から徐々に東に移動するが、7月25日の段階ではCE地区での収穫に加えWalla Walla郡で収穫が進んだ。冬小麦の単位収量は良好と報告された。Adams郡にて春小麦の収穫も開始されたが、単位収量は期待より悪いと報告された。7月末まで高温・乾燥気象が続いた。7月下旬に冬小麦の収穫はWalla Walla郡からWhitman郡の西部へと進んだ。春小麦の枯熟が7月の高温気象の為早まった。

8月1日現在、冬小麦は35%（昨年：38%、5年平均：30%）、春小麦は24%（昨年：17%、5年平均：11%）の圃場にて収穫が完了していた。Palouse地方でも冬小麦の収穫が開始された。8月第1週に各地で雷雨が発生した。多くの農家が悪天候の予報に収穫作業を急いだ。Walla Walla郡では収穫最盛期であったが、雷雨のため収穫は中断した。8月15日に終わる週では高温・乾燥気象となり、EC地区のAdams、Lincoln両郡では冬小麦の収穫が完了した。8月22日にワシントン東部、南部に集中豪雨が有り小麦の収穫が中断。この時点で冬小麦は87%、春小麦は81%が収穫されていた。8月29日にも豪雨が有り、この1週間の降水量はRitzvilleにて0.55インチ、Whitmanにて0.83インチ、Walla Walla郡では1.0~1.35インチを記録した。8月29日現在冬小麦は91%、春小麦は89%の収穫完了であった。8月下旬の降雨の為、両小麦の収穫完

了は例年より多少遅れる結果となった。例年小麦収穫の最も遅い Spokane 郡での収穫完了は9月14日となった。

2004年夏季休耕圃場の水分は良好な状態となった。2005年産冬小麦の播種が9月第1週の終わりより東中央地区にて開始された。例年より多少遅い播種の開始であった。

土壌水分及び灌漑用水：2003年及び2004年9月12日現在

	Very short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil (%)	2	22	71	5
Last year (%)	28	43	29	0
5-Year Ave (%)	24	46	32	1
Subsoil (%)	4	30	66	0
Last year (%)	16	35	51	0
5-Year Ave (%)	14	47	39	0
Irrigation Water (%)	0	8	92	0
5-Yar Ave (%)	3	5	92	0

作付け面積と生産量：

農務省は発表作付け面積及び収穫面積：2004年8月1日調べ。

	Area Planted 1,000 acres			Area Harvested 1,000 acres		
	2002	2003	2004	2002	2003	2004
Winter wheat	1,800	1,850	1,800	1,750	1,800	1,700
Spring wheat	620	550	560	615	545	555
WA total	2,420	2,400	2,360	2,365	2,345	2,255

2004年産冬小麦の作付面積は、2003年産の作付け面積より50,000エーカー減少した。減少した大きな原因は2003年播種期の圃場の水分不足の為と言われる。

春小麦は、3月の気象が良く土壌水分も充分であったことや、冬小麦の作付けを行わなかった圃場が増えたことより、2003年産より増加した。

ワシントン州の小麦生産の中心は農業統計地区のSouth Central(東中央地区)であり、全小麦作付け面積の凡そ49%を占め、続きSouth East(東南地区)が36%ほどである。両地区でワシントン州の小麦作付け面積の85%を占める。

農務省8月1日付け小麦生産量予想：

Crop yr	Area Harvested 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2003	2004	2003	2004		2003	2004
				July 1	Aug 1		
Winter	1,800	1,700	65.0	66.0	69.0	117,000	117,300
Spring	545	555	41.0	50.0	50.0	22,345	27,750
Total	2,345	2,255	59.4		64.3	139,345	145,050

Source：Washington Agricultural Statistics Service, USDA

冬小麦の播種期は土壌水分が不足状態であったので、根と草丈の発育が不十分のまま

冬を迎えた圃場が多かった。しかし、Mild winter のお蔭で Winter Kill の被害は少なく、春が温暖であったことより栄養成長が順調に進んだ。

農務省の5月1日の生産量予想では、播種期の生育状況が平年より悪かったことより、冬小麦の予想単収は2003年の実績（65.0 ブッシェル）より低い63.0 ブッシェル/エーカーであった。5月末に高温・乾燥気象があったが、その後出穂中の冬小麦にとり Million Dollar Rain と称された降雨があり、作柄が改善された。この6月上旬の降雨は春小麦の生育にも極めて有効であった。

登熟期の気温は平年より低めに推移し、時に驟雨もあり澱粉蓄積には良好な天候であった。

7月1日の単収予想は上向きの数値となった。8月の気象は、中旬まで高温・乾燥気象が続き、東部中央地区の乾燥地帯では8月第3週までに収穫が完了した。8月1日付けの農務省生産量予想では、2004年産冬小麦の単位収量は69.0 ブッシェル/エーカー（2003年産冬小麦実績の106.2%）であった。春小麦も2003年産を2割強上回る50 ブッシェル/エーカーと発表された。

品質予想：

ソフト小麦は2003年産より容積重が高目、蛋白質は低目と予想され特に Palouse 地方のソフト小麦は、品質良好と報告された。但し、8月下旬に収穫されたソフト小麦には FN 値が300を切るサンプルが散見されたとの報告もある。8月22日、23日に集中豪雨が有ったことが原因と考えられ、収穫が進むに連れ被害粒の混入が報告された。被害粒の混入率は多少昨年より多い模様。クラブ小麦は EC（東中央地区）が主産地であるが、蛋白質は2003年産より多少高目の数値（8.2～12.7%）が報告されている。

作付け品種：

ワシントン州の2004年産小麦の作付け面積は、総作付け面積で2003年産作付け面積より40,000エーカー減少した。冬小麦だけで見ると50,000エーカー減少し、春小麦は10,000エーカー増加した。2004年産小麦総作付け面積は、2,360,000エーカーであった。

全冬小麦作付け面積の内、凡そ83.6%が Common soft white wheat であり、その面積は1,504,000エーカーと発表された。Club wheat が8.6%（155,500エーカー）、Hard red winter wheat が7.4%（133,500エーカー）であった。

春小麦の作付け面積560,000エーカーの内、Common soft wheat は299,000エーカーで53.4%を占め、Hard red spring wheat は37.6%（211,000エーカー）、White spring wheat が0.5%（50,000エーカー）であった。

Common soft winter wheat の作付け上位3品種は、Eltan、Madsen そして Madesen & Rod の混合となっており、これらで Common soft winter wheat の作付け面積の56.4%を占めた。作付け第1位は Elant（447,000エーカー）であり、作付け地区は EC（東中央地区）の乾燥地帯に集中した。SE（東南地区）の Palouse 地方の中心品種は Madesen 及び Madesen と Rod の混合であった。Club 小麦は EC 地区に作付けられ、その面積

は 147,500 エーカー (全州 Club 作付けの 94.9%に相当) であった。中心品種は Bruehl (82,900 エーカー)、続いて Chuckar (22,300 エーカー : 14.3%) であった。尚、オレゴンの人気品種 Coda は第 3 位 (15,100 エーカー : 9.7%) であった。

春小麦の内 Common soft white の作付け面積は 299,000 エーカーであり、2003 年産の作付け面積 (318,400 エーカー) より 19,400 エーカー減少した。一方、Hard red spring の作付けが 24,5000 エーカー増加し 211,000 エーカーとなった。Hard white spring wheat の作付け面積は、2003 年産より多少増加し 50,000 エーカー (2003 年 : 45,100 エーカー) であった。

Common spring white の作付け第 1 位の品種は Alpowa であり、その作付け面積は 221,200 エーカー、Common spring white の 74.0%を占めた。作付け状況は、EC 地区に 114,400 エーカー、SE 地区に 55,9000 エーカーであり、両地区のトップ Common spring white 品種であった。SE 地区では第 2 位として Wakanz が 19,000 エーカー作付けられた。Hard white の品種は第 1 位が Balanca Grande、続いて Idaho 377S で、この 2 品種で Hard white の作付けの 82%を占めた。

ワシントン州の小麦品種の明細については、下記の NASS・Web サイトにて見る事が出来る。

<http://www.nass.usda.gov/wa/whtvar04.pdf>

当該作柄・気象レポートに関するご質問は下記にお願い致します。

小川正晃 : <mailto:ogawa.max@omicnet.com>